

# ビワ生育情報

第 7 報  
千葉県農林水産部  
令和 2 年 4 月号

4月1日時点での着果状況は平年よりやや少なく、幼果の縦径は3品種とも平年よりやや小さい。

## 令和元年3月の気象

令和2年3月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は全ての半旬で平年よりも高く推移した。月平均気温は13.1℃で、平年より3.9℃、前年より2.4℃高かった。

最低極温は全ての半旬で0℃以上であり、氷点下日数は0日であった。

降水量は第2、3及び第6半旬は平年より多かった。月合計は214mmで平年の115%、前年の189%であった。

日照時間は第3及び第6半旬は平年より少なかった。月合計は173時間で平年の110%、前年の96%であった。

表1 令和2年3月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C) *1		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	9.6	7.7	8.6	0	0.7	0	1.2	0.3	5.7
2	11.7	8.1	10.4	0	0.8	0	4.1	0.1	1.2
3	11.1	8.9	11.0	0	0.6	0	2.7	0.8	1.4
4	15.0	9.6	10.9	0	0.2	0	7.5	2.0	1.5
5	18.5	10.0	11.5	0	0.2	0	13.7	2.6	0.6
6	12.7	10.5	11.5	0	0.2	0	4.2	2.4	5.4
平均/計	13.1	9.2	10.7	0	2.8	0	1.2	-1.1*2	0.6

※1：本年及び前年は各半旬に記録した最低気温を示し、平年値は過去30年の平均値

※2：3月中に記録した最低極温の30年間平均値

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	24	20	44	26	18
2	70	22	45	29	27	24
3	65	29	38	24	26	48
4	2	22	1	36	25	37
5	14	48	2	27	24	26
6	64	41	7	13	30	28
平均/計	214	186	113	173	157	181

## 5月の作業 (果実の発育は次ページ)

ビワの袋かけも終わり、展葉の終わった新葉は濃緑色になり、果実は成熟期を迎える。本年の果実の生育は平年と比べて3品種ともにやや遅く推移しており、早生品種の収穫は5月中旬頃から始まり、収穫の最盛期は6月上旬と予想される。

収穫前にモノレールや索道、道路を整備するとともに園内の草を払っておき、収穫道具や出荷用資材を揃えておく。1樹の収穫は2～3回に分けて収穫適期の果実を収穫するが、特に1回目の収穫では未熟果が混入しないように果皮色をよく確認して収穫する。

## 台木の養成

ビワの苗木は、生産しているところが少ないので、自家生産に取り組む。収穫した果実から種子を採り、種まきして、台木用の実生苗を確保しておく。「楠」の実生は、播種後の

生長が早く、根張りが良いので、台木に適している。接ぎ木を行う場合は播種後2、3年間養成して、幹が直径1.5cm程度の太さになった台木を用いる。実生苗は、降雨によってごま色斑点病が伝搬し枯死するので、ビニールで屋根かけして雨水を遮断する必要がある。

## 果実の発育

4月1日現在のビワの果径は表2に示した。横径は「楠」が1.54cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ1.60cm、1.57cmであった。「楠」は平年の97%で、「大房」は平年の102%、「田中」は同程度であった。生育が早かった前年と比べると、3品種共に79~86%と小さかった。

縦径は「楠」が1.94cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ1.96cm、1.90cmであった。3品種ともに平年並みからやや小さかった。また、生育が早かった前年と比べると、3品種共に79~83%と小さかった。

果形指数は「楠」が0.79、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.81、0.82であった。本年の果形指数は「楠」及び「大房」は平年と同程度であり、「田中」は平年より大きく横長傾向である。

果実の発育は、「大房」は平年並み、「楠」及び「田中」は平年より遅く推移している。今後の気象にも影響されるが、収穫期は、どの品種も平年並みからやや遅いと予想される（各品種の平年値は前年の7月号を参照）。本年は、着果率は高かったものの寒害を被った幼果が多く、着果量は平年よりやや少ない。前年9月、10月の台風通過時に倒木や潮風害を被り樹勢が低下した樹は、果房数を減らし樹勢の回復を図る。

クワゴマダラヒトリによる果実の被害は平年よりやや多い。果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市ほか県南地域で少発生年と同様の傾向を示すが、チャバネアオカメムシの発生は中発生と予測されているので、今後の発生予察情報を参考に参考にする。例年、カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要し、薬剤防除に取り組めるように準備を進める。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

表2 果実の発育（4月1日の果径）

品種	調査地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠		1.54	1.59	1.87	1.94	1.99	2.34	0.79	0.80	0.80
大房	青木	1.53	1.59	1.87	1.90	1.98	2.27	0.81	0.80	0.82
	南無谷	1.62	1.64	1.87	1.87	2.05	2.32	0.87	0.79	0.81
	暖地園研	1.64	1.52	1.86	2.12	1.92	2.35	0.77	0.79	0.79
	平均	1.60	1.57	1.87	1.96	1.97	2.31	0.81	0.80	0.81
田中	青木	1.44	1.59	1.97	1.79	2.00	2.31	0.81	0.79	0.85
	南無谷	1.67	1.57	2.00	1.97	2.06	2.49	0.85	0.76	0.81
	暖地園研	1.59	1.55	1.96	1.95	1.98	2.48	0.82	0.78	0.79
	平均	1.57	1.57	1.98	1.90	2.00	2.42	0.82	0.78	0.82

果形指数：横径／縦径

平年：平成2年～平成31年の30年間の平均。

南無谷は平成10年～平成31年の22年間の平均。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>